カール・ライスター クラリネットリサイタル

1部

ロマンス 変ホ長調 Op.61 ……R.シュトラウス
アデライーデ Op.46 ……ベートーヴェン
即興曲 Op.90より 第3番 変ト長調 …シューベルト
タイスの瞑想曲 ……マスネ
「美しき水車小屋の娘」D.795より
　好奇心の強い男　どこへ ……シューベルト
涙の賛美 D.711 ……シューベルト
セレナード「聞け、聞け、ひばりを」D.889…シューベルト

2部

幻想小曲集 Op.73 ……シューマン
幻想小曲集 Op.12より「飛翔」 ……シューマン
クラリネット・ソナタ 変ホ長調……メンデルスゾーン

秋

2007 四季のコンサート

2007年10月14日(日)6:45 PM
会場：浜松市教育文化会館
主催：浜松音楽友の会

プロフィール

カール・ライスター（クラリネット）

1937年ヴィルヘルムスハーフェンに生まれた。ベルリン放送交響楽団のクラリネット奏者だった父からクラリネットの手ほどきを受けた。1953年から1957年までベルリン高等音楽大学でハインリヒ・ゴイザーに師事。その後、演出家ヴァルター・フェルゼンシュタイン監督のもとベルリン・コーミッシェ・オーパー管弦楽団のソロ・クラリネット奏者を2年間務めた。1957年、ミュンヘン国際コンクールで第2位に入賞する。1959年にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の第1ソロ・クラリネット奏者に就任。一方、ソロ活動も活発に展開する。その後34年間在籍し、1992／93年シーズンをもってベルリン・フィルを退団、1993年9月ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学教授に就任した。ライスターは、ドイツ国内外の数多くのコンクールに入賞し、ソリストとしては世界各地でカラヤン、ベーム、フリューベック・デ・ブルゴス他多くの指揮者のもと演奏している。カラヤン、ベーム、クーベリック、レヴァイン、アマデウス弦楽四重奏団、ピアノのケンプ、イエルク・デムス、キャスリーン・バトル、ジェイムズ・レヴァイン等とDGG、EMI、フィリップス、ソニー等に多数の録音を残している。カメラータ・トウキョウには20枚を越える主要レパートリーが録音されている。ベルリン・フィルハーモニー管楽アンサンブル及びアンサンブル・ウィーン＝ベルリンの創立者のひとり。サイトウ・キネン・オーケストラに参加している。著書には「ベルリン・フィルとの四半世紀」(音楽之友社)がある。ロンドン王立音楽アカデミー名誉会員。

土居知子（ピアノ）

1990年京都市立芸術大学卒業。93年同大学大学院を修了後、1996年国立ドレスデン音楽大学大学院修了、1998年同大学マイスタークラスを修了。1989年第8回飯塚市新人音楽コンクール第1位。1990年京都音楽協会賞受賞。1992年第38回マリア・カナルス国際音楽コンクール第3位、並びに特別賞として「フランス音楽最優秀演奏者賞」受賞。1993年京都市立芸術大学「大学院賞」受賞。NHK洋楽オーディション合格。1995年第5回カントゥ国際ピアノ協奏曲コンクールで1位なしの第2位、並びに「最優秀演奏者賞」受賞。1997年第7回ABC新人オーディション合格。1998年神戸新聞松方ホール音楽賞「大賞」受賞。同年大阪文化祭賞「本賞」受賞。2002年青山音楽賞受賞。ソロリサイタルやオーケストラとの共演の他、室内楽・伴奏者としても精力的な活動を行い、これまでにウィーン木管アンサンブル、カール・ライスター（Cl）、フランソワ・ルルー（Ob）など世界的な奏者とも共演し、好評を博している。

カール・ライスター
クラリネットリサイタル

KARL LEISTER
CLARINET RECITAL

曲目解説　真嶋雄大

●R.シュトラウス（1864～1949）／ロマンス　変ホ長調 Op.61

R.シュトラウスはホルン奏者だった父の英才教育を受け、幼くしてヴァイオリンとピアノを学び、作曲も始めた。父は伝統的な音楽に固執していたため、シュトラウスの初期作品には、ベートーヴェンやシューマン、メンデルスゾーンなどの影響が色濃く現れている。この作品はシュトラウスが14歳のときの作品で、クラリネットとオーケストラのために書かれた。古典派的な手法を踏襲しながら情感の豊かな作品であるが、他にチェロと管弦楽のための「ロマンス」も存在する。

●ベートーヴェン（1770～1827）／アデライーデ Op.46

連作歌曲集「遥かなる恋人に」など、ベートーヴェンは優れた歌曲を作曲しているが、これはマッティンソンの詩によるもので、ベートーヴェンの代表的歌曲といえる。恋人アデライーデへの恋慕を切々と綴るこの歌は、1795年または96年に作曲され、マッティンソンに献呈された。変ロ長調、2/2拍子、ラルゲットからアレグロ・モルトに移る。ちなみに同じ詩で1814年、シューベルトも歌曲「アデライーデ（D.95）」を残している。

●シューベルト（1797～1828）／即興曲 Op.90より 第3番 変ト長調（ピアノ・ソロ）

性格的小品（キャラクター・ピース）は、ロマン派を中心として自由な発想で作曲されたピアノ小品である。タイトルが付けられることも多く、その原点はシューベルトの「即興曲」や「楽興の時」などに遡る。シューベルトは、それぞれ4曲からなる2つの即興曲「D.899」と「D.935」、そして3つの小品（即興曲）を書いた。この「第3番」はアンダンテ、4/2拍子。素朴で穏やかな旋律が、清楚に伸びやかに歌われる。

●マスネ（1842～1912）／タイスの瞑想曲

マスネはフランスの作曲家で、オペラを中心に協奏曲や歌曲を多く残した。「タイス」は1894年に初演された3幕からなるオペラで、マスネの代表作。この「瞑想曲」は、第2幕第1場と第2場との間に設けられた間奏曲。簡単な三部形式をとり、その甘美なメロディーによって広く親しまれている。本来は独奏楽器とオーケストラによって演奏されるが、室内楽にも多く編曲されている。アンダンテ・レリジョーソ、4/4拍子。

●シューベルト／「美しき水車小屋の娘」D.795より 好奇心の強い男　どこへ

18世紀初頭、大流行したパイジェルロの歌劇「水車小屋の娘」に啓発され、連作形式の詩を書いたのがミュラーである。それにシューベルトが曲をつけたのが1823年、既に不治の病を自覚している頃であり、この20曲からなる歌曲集はシューベルトの青春への決別とも言える。「好奇心の強い男」は第6曲、若者は娘が自分を愛しているのか小川に問う。「どこへ」は第2曲、清らかな小川に沿って旅を続ける若者の清新な気分を歌う。

●シューベルト／涙の賛美 D.711

シューベルトが世に知られたのは、まず歌曲作曲家としてであった。私的な集まりである「シューベルティアーデ」において、友人フォーグルの歌唱とシューベルトのピアノは、人々の心をとらえて離さなかったほど。結局シューベルトは600曲もの歌曲を残したが、この「涙の賛美」はシュレーゲルの詩によって、「たとえ官能が何を得ようとも、それがいつか心を満たすだろうか」と歌われる。1818年頃に作曲され、後年リストがピアノ曲に編曲もした。

●シューベルト／セレナード「聞け、聞け、ひばりを」D.889

シューベルトが3曲残したセレナードのひとつ。シェイクスピアの喜劇「シンベリン」の第1詩節に付曲しただけだが、後にライルのドイツ語訳が加えられ、現在3詩節で歌われる。メロディは空高くさえずるひばりを思わせる。「ひばりの声がする。日の神が目を覚ます。娘さん起きて！」

●シューマン（1810～1856）／幻想小曲集 Op.73

「幻想」というタイトルはシューマンのお気に入りで、幾つかの作品に見られる。この「幻想小曲集」は、クラリネットとピアノのために1849年に書かれた。シューマンは家族でドレスデンからクライシャに移住、集中して創作に携わっていた頃で、この「幻想小曲集」は、シューマンの自宅での室内楽のために書かれたのではないかと推測されている。第1曲：やさしく表情をもって、第2曲：生き生きと軽く、第3曲：せいて情熱をもって。

●シューマン／幻想小曲集 Op.12より 『飛翔』（ピアノ・ソロ）

タイトルは同一だが、こちらは前の曲とは異なる。数多いシューマンのピアノ曲の中でも、とりわけファンタジーの横溢する作品。1837年、やっとクララとの婚約に漕ぎ着け、再び創作意欲を燃やしていた頃に作曲された。全8曲で構成されるが、「飛翔」は第2曲。「きわめて急速に」と指定され、情熱的である。ロンド形式、ヘ短調。この曲集のなかでも特に親しまれており、単独でも多く演奏される。イギリスの女性ピアニスト、ライドロウに献呈された。

●メンデルスゾーン（1809～1847）／クラリネット・ソナタ 変ホ長調

メンデルスゾーンは幼少から突出した才能を発揮し、1824年には交響曲第1番を作曲して周囲を驚かせた。このクラリネット・ソナタを書いたのも同じ頃とされている。あまり演奏される機会のない作品であるが、伝統的形式を重んじながら芳醇な情緒が溢れる佳曲である。第1楽章：アダージョ～アレグロ・モデラート、第2楽章：アンダンテ、第3楽章：アレグロ・モデラート

まじま ゆうだい（音楽評論家）